

今まで、「意思決定支援」という言葉から、たいそう？おおげさ？な印象を受けていました。果たして、その視点で私たちは支援ができていますのか???

この分科会に参加して、「意思」とは「漠然とした考えや思い」であることを再確認し、「意思決定支援」とは、その漠然とした思いや考えを形にして、ご本人の主体的な選択を支援する事である、と再認識ができました。「何が食べたい？」そんな小さな選択の場面でも、選択肢を準備しご本人に選び決めてもらう。明確な意思を示すことが難しい方でも、支援者が観察し「これが好きそう」という情報を蓄積することが。やがて「意思決定支援」に繋がっていくと思います。

今回の研修に参加させていただき、自分自身の日々の支援について振り返り、事業所として意思決定支援の視点でどれだけ取り組んでいるのかを考える、いい機会になったと思います。ぜひ皆さんに色々な研修に参加して、刺激を受けたり自身の仕事を振り返る事ができればと感じました。

### 近畿ブロック2015年度魅力ある事業所 づくり研修会が開催されました

法人本部 総務部長 飯塚 聡

2月14日(日)に近畿ブロック育成会事業所協議会のブロック研修会である「魅力ある事業所づくり研修会」が京都市で行われました。

今年度の研修会は「工賃アップに向けた取組を考える！」がテーマでした。

研修会は2部構成になっており、第1部の基調講演は、「はあと・フレンズ・プロジェクトの取り組みについて」と題し、京都市保健福祉局の徳永様から、授産振興センターを前身としたNPO法人京都ほっとはあとセンターが中心となり、産学公福連携(民間企業、学校、行政、事業所の4者による連携)でオリジナル商品「カカオバー」というお菓子を企画開発した過程についてのご講演でした。

京都ほっとはあとセンターでは、京都が観光地という特色を生かし、付加価値の高いオリジナリティー溢れる京都らしい商品を授産製品で作ろうということで、産学公福連携でお菓子を作ることになり、製菓・広報の各部門で民間や学校の専門的知識を取り入れ、高い付加価値を持たせたという事でした。

このプロジェクトにより、事業所単独では困難な産学公福連携を行い、従来の授産製品とは異なった高付加価値商品に取り組めるようになり、事業所では工賃向上に結び付けることができたという総括でした。

第2部は「工賃アップに向けた取組を考える！」と題しシンポジウムがありました。

最初のシンポジストは舞鶴市にある「まいづる福祉会」で統括施設長をされている新谷様から、まいづる福祉会の事業所「ワークショップほのぼの屋」でのレストラン事業を中心にお話しがありました。ここでは、就労継続A型と就労継続B型を行っており40名の利用者を受け入れています。場所も舞鶴湾を見下ろす高台にあり、本格的なフランス料理を提供しているレストランという事で、予約が取りにくいレストランとして有名です。事業所としては、月額工賃は80,000円を目指しており、最も高い工賃を貰っている方は月額150,000円ということです。人気のレストランという事から、レストランウェディングの予約も多く、今までは社会から疎外されてきた精神障がいのある方も「結婚式=第2の人生のスタート」をサポートすることで、自らが社会の一員として働いているという実感を得る事が出来ているというお話しでした。

2番目のシンポジストは、奈良県社会就労事業振興センターで事務局長をされている中山様から、国の経済対策事業としての「地域住民生活等緊急支援のための交付金」(2014年度補正予算)を活用した「はたらく障害者応援 プレミアム商品券」のお話しでした。この商品券は額面500円の券を250円で6万枚発行し、奈良県内の事業所の授産製品の購入や直営のカフェでの消費に充てるというものです。

この事業を主に担当した振興センターの意見としては、交付金を活用した授産商品の購買拡大を広めたいというまとめでした。



3番目のシンポジストは滋賀県社会就労事業振興センターで事務局長をされている中塚様から、滋賀県における工賃向上事業の実際と課題についてのお話しでした。

滋賀県では就労系事業所で就労移行実績が少ないという状況です。そのため、振興センターでは「福祉事業所の仕事おこし支援事業」を行っています。事業